

令和4年度 第1回函館市東部地域まちづくり懇談会 会議録

-
- ◆ 日時 令和4年10月7日（金） 14:00～15:20
 - ◆ 会場 榎法華総合センター 2階大ホール
 - ◆ 内容
 - 1 開会
 - 2 座長挨拶
 - 3 出席者紹介
 - 4 議題（1）函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について
（2）分科会報告
 - 5 その他
 - 6 閉会
 - ◆ 出席者 別添「出席者名簿」参照
委員（出席者18名 欠席者2名）、事務局ほか（17名）
 - ◆ 報道関係 北海道新聞
-

1 開会

司会 (榎法華： 岩井課長)	<p>ただいまから、令和4年度第1回東部地域まちづくり懇談会を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めさせていただきます、榎法華支所地域振興課 課長の岩井と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>懇談会開催要項6（1）により、開催担当支所は一年度ごとに持ち回ることとなっており、本年度につきましては、榎法華支所が担当させていただきます、座長は榎法華支所長が務めさせていただきます。</p> <p>また、開催要項6（3）に基づき、本日の懇談会は、公開とさせていただきます。</p>
----------------------	---

2 座長挨拶

司会	<p>それでは、本日座長を務めさせていただきます、榎法華支所長の三原より、ご挨拶申し上げます。</p>
----	---

<p>座長 (榎法華： 三原支所長)</p>	<p>みなさん、こんにちは。本日の座長を務めます榎法華支所長の三原と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日はご多忙のところお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃よりまちづくりや市政の推進にご協力をいただいておりますことに、お礼を申し上げます。</p> <p>はじめに、本懇談会について、改めてご説明させていただきます。</p> <p>平成16年の市町村合併後、地域振興のため各支所に設置していた地域審議会が、令和元年度までの15年間で満了いたしました。引き続き、地域の皆様のご意見を伺いながら、東部地域に共通する課題について、対応していくことを目的に、令和2年度に設置したところであります。</p> <p>これまで「観光」をテーマとして開催してまいりましたが、今年度は「公共交通」をテーマとさせていただきます。</p> <p>東部地域の公共交通は、函館バスが担っておりますが全て赤字路線です。赤字分は、利用者数などをもとに一定の基準を満たしていれば、国と道から補助を受けることができます。一方、基準を満たしていなければ、赤字分は一部を市が補助をしていますが、函館バスに持ち出しがあり、経営は厳しい状況にあります。新型コロナウイルスによる行動様式の変化そして人口減少が進むなか、公共交通を取り巻く環境は年々厳しくなっております。そして、この東部地域においては喫緊の課題となっております。</p> <p>皆様からは、ご自身やご家庭、地域住民の公共交通との関わりなど、様々お話をお聞かせいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
--------------------------------	---

3 出席者紹介

<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日お集まりいただきました皆様方をご紹介いたします。私の方でお名前をお呼びしますので、恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。</p> <p>戸井地区町会連合会 松田会長です。 戸井漁業協同組合 越田専務理事です。 函館市戸井支所 西川支所長です。 函館東商工会 佐々木理事です。 函館市第26方面民生児童委員協議会 植野会長です。</p>
-----------	---

	<p> 恵山地区町会連合会 長田会長です。 函館東商工会 横手副会長です。 函館市恵山支所 瀬戸支所長です。 函館市第27方面民生児童委員協議会 蔦会長です。 </p> <p> 楯法華地区町会連合会 川口会長です。 函館東商工会 中市会長です。 函館市第28方面民生児童委員協議会 新谷会長です。 </p> <p> 南茅部町内会連絡協議会 熊谷会長です。 南かやべ漁業協同組合 中村専務理事です。 函館市南茅部支所 池田支所長です。 函館東商工会 佐藤副会長です。 函館市第29方面民生児童委員協議会 佐々木会長です。 </p> <p> 以上、18名の方々にご出席いただいております。 また、事務局やオブザーバーとして、各支所地域振興課・産業建設課職員のほか、企画部からも参加しております。 皆様、どうぞよろしく願いいたします。 </p>
--	--

4 議題 (1) 函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について

<p>座長</p>	<p> それでは、議題に入らせていただきます。 議題(1)としまして、「函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について」になります。 本市の公共交通施策を所管する企画部計画推進室交通政策課から、配付資料に基づき、東部地域の路線バスの現状や今後の見通しなどを説明させていただき、その後皆様からご意見などお話しをお聞かせ願いたいと考えております。 まず、本庁で公共交通施策を担当する企画部交通政策課の職員をご紹介します。 担当課長の横山課長でございます。 担当の渡辺主査でございます。 担当の沼田主任主事でございます。 それでは、配付資料の説明をよろしくお願いたします。 </p>
-----------	---

企画部
交通政策課
横山課長

本日は東部地域路線バスの現状等について説明させていただきますので、ご出席の皆様から忌憚のないご意見をお願いします。

まず説明の前に、先月南茅部地域において実施したゴルフカート型電動車両を用いたグリーンスローモビリティの実証運行については、関係者および地域の皆様のご協力のもと、無事に終了することができました。この場を借りて、お礼申し上げます。

では、お手元の資料「函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について」に沿ってご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

函館市では、平成27年に策定した「函館市地域公共交通網形成計画」に基づき、将来にわたって持続可能な公共交通の構築を目的に、バス路線の再編に伴う利便性向上や利用環境の向上に取り組んできました。東部地域については、地域特性に応じた交通ネットワークの構築を行うこととしておりますが、4地域は旧市内に比べ広大な面積を有する一方、路線バス利用者が少なく、慢性的な赤字路線となっており、国や自治体から毎年多くの補助金を交付していることから、今後、地域福祉バスの有効活用やデマンド方式の導入検討などを含め、地域住民にとって利用しやすい状況を確保しつつ、東部地域に適した地域交通のあり方を検討していくものであります。

このような状況において、人口減少や少子高齢化の進展に加え、新型コロナウイルスの影響に伴う生活スタイルが大きく変化し、市電やバスの利用敬遠、高齢者の外出機会の減少、宅飲みへの定着により公共交通全体がさらに厳しさを増している状況などを踏まえ、検討を進める必要があります。そのために、地域の皆様のご意見をいただきたいと考えております。

資料の2ページ目をご覧ください。

東部地域の路線バスは海岸線を一周するように走っており、函館駅方面あるいは鹿部町方面に繋がっております。また、東部地域には各支所管内で運行している地域福祉バスがあり、団体の社会活動に利用されるなど、用途は限られておりますが無料で利用でき、路線バスと競合している部分があります。

現在、路線バスを運行している函館バスから聞き取った内容などを含めて説明させていただきます。東部地域の路線バスは、地形的な特性から海岸線を通る以外の経路が取れず、広大な面積と相まって非常に長い路線になっており、効率的な系統を考えることが困難

になっております。さらに、東部地域は旧市内の地域よりもはやい速度で人口減少が進んでおり、利用者数の減少に歯止めがかからず、現行の路線バス事業は危機的状況になっております。

本年3月、函館バスから函館市生活交通協議会に対し資料が出されましたが、これによると日ノ浜団地から恵山御崎までの1日当たりの利用者は3.6人、1日9便運行されているので、1便当たり0.4人となっております。古部から南茅部支所までは、1日当たりの利用者数は26.2人いるものの、1日7.5便運行されているので、1便当たり3.5人となっております。中には誰も乗っていない便もあることから、「空気を運んでいる」と揶揄されたりもしております。

東部地域の路線の一部には国や自治体からの補助金が交付されていますが、令和3年度の赤字額は約8千6百万円となっております。国や自治体からの補助金約5千9百万円を投入しても、約2千7百万円が函館バスの負担となっております。これに、補助金の対象とならない路線を加えると、函館バスの負担額すなわち赤字額はさらに増えると見込まれます。

函館バスからは、これらの資料をもとに将来的な維持の困難さが示されているとともに、路線バス以外の手法も視野に入れた、地域に適した路線維持を図りたいという意向も示されていることから、すぐに路線バスの廃止ではなく、地域特性に応じた運行形態を目指すこととなっております。

資料の3ページをご覧ください。

これらのことから、現行の路線を将来的に維持していくことは困難であるため、今後の方向性について検討していきます。

前提として、新型コロナウイルスの影響により変化した生活様式が定着してきているため、その収束後も以前の利用者数には戻らないと言われておりますことから、

- (1) 現在の路線バスが果たす役割を継承し、自家用車を利用できない地域住民を取り残さない。
- (2) 輸送量に応じて小型車両の利用を視野に、柔軟な経路設定を検討する。
- (3) 現在の運賃よりも高額とならないよう考慮し、経費の節減を図りながら持続可能な公共交通とする。

以上3点を踏まえ、今後の公共交通のあり方を検討していきたいと考えております。

	<p>最後に今後の調査についてですが、市では現在「函館市地域公共交通計画」の策定を進めているところでございます。これまで、市民へのアンケート調査などを行ってきましたが、10月1日から本日7日までの1週間、東部地域を走っている全ての路線バスに実際に乗車し、利用実態の調査を行っております。</p> <p>次の段階としては、地域の皆様と直接話をして、これら調査で把握し切れていない地域の実情や要望を伺いたいと思っております。本日はその第一歩だと考えております。今後は4地域ごとにワークショップを開催して地域の意見を聞きたいと思っております。現在、10月と12月の開催を目指して日程等を調整中でありますので、何卒ご協力をお願いします。</p> <p>公共交通の問題は地域の皆様に大きく関わることでありますので、すべての要望に応えることは難しいものの、できる限り地域の目線に立った対策を考えていきたいと思っておりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の説明に対し、ご意見やご質問はございますでしょうか。</p>
榎法華： 中市委員 (東商工会)	<p>4地域は人口減少が大きく、高齢者が多い。路線バスに乗る人が少ないから再編といわれるが、大型車が使われているので、車両の小型化とかハイブリッド車の利用といった経費削減策を考えてほしい。実際、国道沿い（バイパス）は家が少なく、逆に家の多い旧道沿いでは大型バスは走りにくいのではないかと思います。</p>
横山課長	<p>函館バスにその旨を伝えます。</p>
南茅部： 佐々木委員 (29 民児協)	<p>運転免許証を返納した時には路線バスを使いたいが、その利用をしないのは、本数が少なく旧市内へ移動となると1日がかかりとなってしまう。運転免許を持たない人の中には、バスの時間が合わないので親戚に車を出してもらったという人もいます。この地域は車がなければ何もできない現状であり、事故が起こってからでは遅い。赤字だから本数を減らすという単純な考えではなく、いかに便利に利用できるかを考えていただきたいです。</p> <p>それと、地域福祉バスの利用状況をお聞かせ願います。</p>

座長	<p>楯法華地域の例でいうと、老人クラブや町会、小中学校の行事等で一定の人数（10名以上）がいると利用できるようになっていきます。個人の利用は対象になっていません。</p>
南：佐々木委員	<p>一般の人でも、私用で利用できる方法を考えてほしいです。</p>
楯法華： 川口委員 (楯法華町会 連合会)	<p>今日、銚子町のバス停で1人バスを待っている人を見た。 西部地区での電動カートによる実証実験も好評だったようだし、十勝地方では小型バスを使った運行も行われているらしい。車両の小型化なども一つだが、地元住民だけの利用では赤字解消とはならないので、江ノ島電鉄のように、この地域に降りてみようと思わせる魅力ある地域づくりができないと地域交通の存続は難しいのではないのでしょうか。</p>
戸井： 松田委員 (戸井町会 連合会)	<p>今年の3月まで函館駅から下原木までを結ぶ1日3便のバスがあったが、4月からなくなった。私の住んでいる地区は80世帯ほどあるが、車を持っている家は90%以上になっており、1世帯で2・3台持っているところもあります。車を持っていない人は、ほとんどが高齢者で、通院等でバスを使っている人もいます。 利用者が少ない現状ではあるが、利用者がいる限り、皆で知恵を出し合って運行してほしいです。</p>
座長	<p>路線バスが廃止になっても、それに代わる方法を考えていかなければならないと思う。 新聞にも載っていたが、森町では路線バス空白地区から市街地までの買い物送迎を行うバスを走らせる実証運行を行う予定であるほか、鹿部町でもリゾート地と市街地を結ぶコミュニティバスを走らせています。 恵山高校や戸井高校が存続していた頃は、高校生が多く利用していたし、楯法華支所の前にある待合所にも、たくさんの生徒たちがバスを待っていたと聞いたことがあります。 いずれにしても、公共交通が全くないという状況にさせないように、市としても検討しないとイケないと思っています。</p>

<p>恵山： 長田委員 (恵山町会 連合会)</p>	<p>恵山地域では病院の送迎バスが老朽化で廃止になり、本年4月から地域福祉バスを使って送迎しています。</p> <p>また、温泉送迎も週2回行っており、温泉送迎のある日は、その合間を縫って病院送迎を行っているほか、団体の行事にも利用しています。路線バスは便数を減らしてもいいが、函館バスに頑張ってもらって無くさないでもらいたいです。</p>
<p>南茅部： 熊谷委員 (南茅部町内会 連絡協議会)</p>	<p>南茅部地域でも地域福祉バスを利用した病院の送迎を週1回行っており、他に老人クラブの温泉送迎にも利用しています。南茅部地域では小学校が1校に統合されており、来年の4月からは中学校も1校になるので、小中学校の行事での地域福祉バスの利用数が少なくなるのではないのでしょうか。そういう意味でも、地域福祉バスの利用用途が限られている現状を変えて、病院や温泉の送迎に限らず、もっと地域の中で活用する方法や地域の方に喜んでもらえる利用方法を探っていかなければならないのではないのでしょうか。</p> <p>また、高齢化によって路線バスの乗り降りも大変になってきているので、そういう人たちのためにも、バスの低床化を検討していただきたいです。</p>
<p>榎法華： 新谷委員 (28 民児協)</p>	<p>路線バスに関しては、人口減少が最大の問題ではないでしょうか。国が基準に達しない路線は切り捨てるといって行っている政策だから地域で工夫して、地域福祉バスでなくとも自宅から目的地までも自由に送迎できるシステムがあれば、公共交通の利用価値もゼロではないと思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>旧市内にも人口が少ない区域があり、市議会でもたびたび公共交通に関する質問が出ています。デマンド交通といって、事前予約制で自宅や所定の場所から目的地まで送迎するシステムが全国的に増えており、この地域でもそういうシステムができれば、現在の路線バスよりも利便性は上がると思います。</p>

<p>戸井： 植野委員 (26 民児協)</p>	<p>戸井地域では社会福祉協議会が、介護認定を受けている方を対象に、予約制で旧市内の病院に送迎するサービスを行っています。</p> <p>地域福祉バスは誰でも使えるものではないが、地域でのイベントなどが無いときは、介護認定を受けていない人の送迎に活用できないかと思っています。</p>
<p>恵山： 蔦委員 (27 民児協)</p>	<p>私は恵山地域の端の方に住んでいますが、路線バスは高校生が通学に使用しているのを見ます。しかし、原木での乗り換え便がなくなったことで、途中から乗車する人の中には、車内で立ち続けられない人もいます。代替手段があるなら、廃止・減便はやむを得ないが、それが無いなら、現状を維持してもらわないと困ります。先程、小型化や予約制にするという話が出ましたが、今日家の近くのバス停で観光客がバスを待っていました。思いがけない形で利用する人もいます。</p> <p>また、私の地区では自宅からバス停までの距離が500mから1Kmというところもあるので、高齢者がそこまで歩いて行くのは大変です。それと、この地域を走っている路線バスはステップが高く、高齢者の乗り降りが難しいので、時間帯によっては小型化や低床の車両を走らせるなど対応してほしいです。</p> <p>買い物についてはコープが移動販売車を走らせているし、地域福祉バスが曜日によって病院送迎と温泉送迎を行っているほか、最近では旧市内の病院が独自の送迎バスを走らせており、路線バスの利用は多くはないと思いますが、それでも廃止をせずに費用を抑えて運行する方法をまずは考えていただきたいです。</p>
<p>恵山： 横手委員 (東商工会)</p>	<p>資料を見ると、1日に往復で3便ほど走っていて(函館駅前～椴法華、古部、鹿部など)、これは料金を取っているが、これを誰でも無料にしてはどうでしょうか。運転免許の有無に関わらず、市民であれば全員無料にすれば利用率が増える。市の負担は増えるかも知れないが、効率は良くなると思うがいかがでしょうか。</p>
<p>横山課長</p>	<p>斬新な意見ではありますが、路線バス事業において、無料とすることはなかなか難しい。</p>

<p>恵：横手委員</p>	<p>路線バスに限定するから難しいと言われてしまう。そうではなく、人を輸送するもの全般を無料にすることです。地域の利便性を考えるなら、まずは公共交通を無料にすれば運転免許を持っている人も利用するようになるかもしれないし、時間を工夫すれば乗る人も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>市民の税金を使っても利用する人が増えれば、地域に貢献していることになるから良いと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>地域のコミュニティバスを低料金や無料で実施しているところもあるようです。</p>
<p>恵：横手委員</p>	<p>それだと恩恵を享受できる人とできない人がいます。</p> <p>でも、全ての公共交通が無料になれば不公平ではないし、市民も安心して乗ることができるのではないのでしょうか。</p>
<p>座長</p>	<p>ご意見として持ち帰らせていただきます。</p>
<p>横山課長</p>	<p>皆様から様々なご意見をいただき、改めて感謝申し上げます。</p> <p>車両を小型化しても存続してほしいという声が多かったので、今日の内容を函館バスにも伝え、今後あらゆる角度から検討します。</p>
<p>榎：川口委員</p>	<p>最後に、私の町内会は区域が広く、イベントなどを開催したときに高齢者が歩いてくるのが大変です。例えば、支所に10人乗り程度の車両を置いて、それを町内会で借りて、町内会員が運転して送迎することができれば、町内会活動が活発になり高齢者の引きこもりも解消できると思うがいかがでしょうか。地域福祉バスは、10人以上でなければ利用できず、運転手は委託先の会社から来ています。小型の車両であれば、もっと町内会が自由に活動できると思うのですが。</p>
<p>恵：横手委員</p>	<p>それは、事故等が発生した場合の責任の所在が分からなくなるし、各種の保険にも加入しなければならなくなるので、町内会の負担も増えるので、好ましくない。運転手はプロでなければいけない。</p>

<p>榎：川口委員</p>	<p>私は町内会長をやっている大型免許も持っているのですが、そういうことができれば町内会活動も活発になると思っている。</p> <p>地域は衰退しているの、既存の規制を緩和していかないと解決できないのではないのでしょうか。</p>
<p>座長</p>	<p>法律の問題もあり、どれが正しいとは一概に言えないのですが、ご意見として持ち帰らせていただきます。</p>
<p>榎：中市委員</p>	<p>公共交通のあり方ということですが、これまでの例を見ていると、あり方の検討イコール廃止という構図になっていませんか。</p> <p>確かに人口が減少して利用者が少ないし、地域福祉バスもいつまで続くか分からないが、地域福祉バスの路線バスに代わる運用などを含めて、あらゆる方法を考えてほしいのです。</p>
<p>座長</p>	<p>公共交通のあり方をどうしていくかも含めて、今後も検討していきたいと思います。</p> <p>公共交通が全く何もない状態にはならないと私も思っているの、これからも引き続き皆さんのご意見をお伺いしていきたいと思っております。</p>

4 議題 (2) 分科会報告

座長	<p>続いて、議題(2)分科会報告です。 観光振興分科会から、報告をお願いします。</p>
恵山支所 産業建設課 町谷課長	<p>それでは、私の方からお手元の資料に沿ってご報告させていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。分科会では今年7月と8月に会議を開催し、次のとおり協議を行いました。</p> <p>はじめに、函館イーストエリアガイドの配布につきましては、昨年7月に印刷・配布を開始して以降、累計で約8千部を配布しており、各支所および本庁管内でこれまで配布した数の内訳は、資料2のとおりとなっております。</p> <p>しかし、配布開始から1年以上が経過する中、道の駅などわ・えさんに新たな店舗がオープンするなどの変化が生じてきておりますので、今後は、増刷のタイミングで時点修正について検討し、必要に応じて更新したいと考えております。</p> <p>また、マップの配布場所につきましても、当初は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が行われている中で、国内外から広く観光客を呼び込む状況にはなかったため、縄文遺跡群の世界遺産登録を機に南茅部地域を訪れた方を他の4支所地域に誘客することを目的として、主に各支所管内で配布してきたところですが、今年の春以降、徐々に状況も変わってきていることから、配布場所の拡大などについても検討してまいりたいと考えております。</p> <p>次に、分科会における調査・研究の概要についてご報告します。函館イーストエリアガイドのPR効果増大に向けた取り組みとしては、普段からスマートフォンやタブレットを持ち歩いている方をターゲットに、より使いやすく、より行ってみたいくなるようなマップとなるよう、ホームページ上のマップデータを改良いたしました。</p> <p>資料3をご覧ください。これは、函館空港の観光案内所「がつつり道南」のPRブースを撮影した写真ですが、案内所を訪れた方は配布している紙のマップを持ち帰ることができるほか、スマートフォンやタブレットをお持ちの方は、設置されたQRコードを読み込むことで、必要な時にいつでも手軽に画面上でマップを見ることができるようになっています。</p>

	<p>さらに、画面に表示されたマップの施設をタップすると、グループマップが表示され、目的地までの経路のほか、施設を訪れた方の口コミ情報や写真なども見ることができます。</p> <p>また、調査・研究の2点目として、分科会では東部地域の観光振興に向けた今後の調査・研究の取り組み方について協議し、今後は、各地域における観光振興の取り組みの内容や効果、改善点などについて情報共有したうえで、それぞれの取り組みごとに、連携する範囲や内容について協議し、効果的な連携体制のもとで取り組みを進めることで、東部地域全体の魅力向上を図っていくことといたしました。</p> <p>以上で、観光振興分科会の活動報告を終わります。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の報告に対し、ご意見やご質問はございますでしょうか。</p>
楳：中市委員	<p>私は今回初めてまちづくり懇談会に参加するので、出席前に過去の会議録を閲覧してみました。</p> <p>第1回の会議録で、懇談会の趣旨として地域の喫緊の課題に取り組んでいくということでした。それで、4支所が協議を重ねて、第2回の課題が観光振興となったようですが、少子高齢化や磯焼け対策、海岸のゴミの問題など、委員から様々な課題が出ていたにもかかわらず、なぜ観光振興が議題となったのでしょうか。</p> <p>それで、懇談会で観光パンフレットを作ったということですが、商工会でも同じような観光パンフを作っています。中身を見るとほとんど同じで、ここまでする必要があるのでしょか。</p> <p>私は市議会議員をやっていたことがありますが、市の総合計画には4地域の観光振興に関するものはなかったと思います。観光振興となればお金がかかることだから、市議会で議論してもらったべきではないでしょうか。そういう意味では、この懇談会で観光振興を議題に取り上げるのは違うのではないかと思います。</p> <p>4地域の課題というなら、今懸念されている千島海溝などの巨大地震による津波において、高齢者をどのように避難させるかなどの方が大事だと思います。他の地域では、そういうことをシミュレーションしています。そういうことこそ話し合うべきではないかでしょうか。</p>

<p>南：熊谷委員</p>	<p>この懇談会もあと2年となっているが、そうした喫緊の課題を取り上げて取り組んでいくべきだと思い、私としても今後は懇談会に出席してこうした声を上げていきたいと思っています。</p> <p>観光振興については昔から言われていましたが、なかなか思うような成果が上がっていません。パンフレットを作ったり、スマホのアプリを利用するというのは悪いことではないが、肝心の観光資源が整備されていない状態です。行ったところで案内板の一つもない。そういう状況では、地図に書いてあっても絵に描いた餅になってしまいます。</p> <p>今日の議題である公共交通も観光振興に結びついてきます。</p> <p>ところで、この夏、函館駅前から縄文文化交流センターを結ぶバスを試験的に運行していたと思いますが、結果はどうだったのでしょうか。</p>
<p>横山課長</p>	<p>今年の8月に運行を行っておりました。</p> <p>所管が観光部なので、確認のうえ、後日報告したいと思います。</p>
<p>南：熊谷委員</p>	<p>こういうことを含めて、この実績をどのように観光振興に活かしていくのか、そういうたたき台がないと踏み込んだ議論はできないと思います。先程も言いましたが、観光資源の整備、観光客へのわかりやすい案内の方法、全体的にわかりやすい地図の作り方というのは誰もが望んでいることだと思います。地図を作って、特定の場所で配布するだけではなく、併せて口頭で丁寧に説明することが大事ではないでしょうか。</p> <p>そういう意味で、もう少しわかりやすい周知の仕方を検討していただきたいです。</p>
<p>座長</p>	<p>議論が盛り上がっているところですが、そろそろお時間となりました。その他に、ご意見などはございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>なお、本懇談会は昨年まで主なテーマが「観光」としておりましたが、今回から「公共交通」になりましたことから、観光振興分科会は解消しますが、引き続き、本庁の観光部と4支所が連携しながら、東部地域の観光振興に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>

5 その他

座長	<p>本日の議題は以上となりますが、「その他」として、最後にご発言などございますでしょうか。</p> <p>(発言なし)</p>
座長	<p>以上で、本日の予定は全て終了でございます。</p> <p>なお、次回の懇談会は、現在のところ、来年の2月頃の開催を考えておりますが、その開催にあたりましては、改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。</p>

6 閉会

司会	<p>以上で、本日の懇談会は終了といたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
----	---